



吉里吉里祭

特集2

大槌に秋の気配を告げる吉里吉里祭が8月27、28の両日、開かれました。27日夜の「宵宮祭」は、天照御祖神社の境内で浪板大神楽、吉里吉里鹿子踊、吉里吉里大神楽、吉里吉里虎舞講中が舞を奉納。28日には「神幸祭」が開かれ、神輿が地



域を練り歩きました。震災犠牲者の鎮魂、復興への願いも乗せた神輿が同神社から発御し、「オーヨ、オーヨ」という威勢の良い掛け声を響き渡らせました。御旅所での休憩では鹿子踊や大神楽、虎舞などの郷土芸能が披露され、力強く、華麗な舞に沿道から盛んな拍手と声援が送られました。最後は、神社前を埋めた観衆が見守る中、神輿が坂道を何度も往復しました。

今回の吉里吉里祭には、震災後から吉里吉里地区と交流を続ける北海道滝川市の躍進滝川太鼓保存会（林敬雅代表）のメンバーも参加しました。「セイヤ」「セイ」の気合十分の掛け声、見事にそろったバチさばきから生まれる勇壮な響き。力強い太鼓の音にのせ、両地域の絆、世代を超えた新たなつながりへの思いを伝えました。

訪れたのは小学生から一般まで約20人。演奏したのは、今回の訪問に合わせた新曲「魁」、震災の時に被災者へ思いを込めて作った「絆」のほか「鼓道一心」「躍進」などの曲目です。宵宮祭の開かれた天照御祖神社の境内のほか、福幸さきり商店街やシーサイドタウンマストなどでも披露し、観衆の胸を打ちました。

大槌の郷土芸能団体も滝川市を訪れて交流しており、同保存会の訪問は今回が2回目。林代表は

「自分たちの太鼓で皆さんに少しでも元気になってもらい、地域が活気づけばと思います」と願っています。



倉内 瑞生さん (15歳、滝川高校1年生)

自分の大好きな太鼓で、被災地の皆さんを応援できることがうれしい。演奏を聞いてくれた人の力になってくれればと思います。



亀井 美鈴さん (16歳、滝川高校1年生)

躍進滝川太鼓の力強さを感じてもらえたらと思います。演奏を通じ、被災地の皆さんに勇気や元気が届くことと願っています。